

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091601452
法人名	株式会社楓
事業所名	グループホーム唱和
所在地	福岡県久留米市御井旗崎4丁目7-33
自己評価作成日	2020年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	2020年3月4日	評価結果確定日	2020年3月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和元年10月に開所したばかりのグループホームであるがこれまでのグループホーム運営の経験を活かしつつ根本は法人理念を基に開設職員により考えたケア行動理念を掲げ、入居者のできること・したいことの実現をし、推測ではなく根拠を持ったケアの提供を心掛け、入居者にとってよりよい暮らしを送って頂けるよう努めている

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はマンションやビルが多い街中にあり、近くにはホームセンターやドラッグストア、公園などがある。駅からは徒歩で10分程の距離にあり、高速の出入口からも近いので、家族や友人も訪ねやすい環境である。令和元年10月に開所したばかりではあるが、母体会社ではグループホームや小規模多機能施設を複数運営しており、これまで培われてきた経験が随所に活かされている。管理者と職員が一緒になって事業所理念を考え、常に利用者へ寄り添った支援を実践できるよう一丸となって取り組んでいる。開所したばかりのため、地域との交流などの面で課題も残されているが、解決に向けた検討をすでに行っており、地域に密着した事業所となるよう日々努めている事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者、来館者が来られた際にも法人・事業所理念を玄関入口の見える場所に掲示している。また朝礼時には、職員で唱和し、理念の共有、実践に努めている	法人理念にある「出会い、ふれあい、認め合い」を基に事業所独自の理念を管理者と職員が一緒に考えて作成している。理念を見えやすい場所に掲示し、朝礼時に職員で唱和して、常に理念を念頭に置きながら利用者を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の日課として、毎日朝夕散歩に出掛ける支援をしており、散歩途中に地域住民への挨拶を心掛け、施設の周知や地域へ馴染めるよう努めている	まだ開所したばかりであるが、地域と交流を図ろうと熱心に取り組んでいる。朝夕の散歩時には挨拶を心がけ、地域住民が気軽に立ち寄れるようにサロンとして開放を計画するなど、地域の一員として認識してもらえるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同じ区内にある他の介護事業所と関わりを持ち、地域に住む認知症高齢者の課題や行方不明になった場合等の支援できる体制・環境作りなど、認知症の専門としての経験を活かす取り組みを始めている段階である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、行政、自治会役員、民生委員の方々に参加して頂き、様々な意見を取り入れてサービスの改善に努め、より良いサービスを考えている。また、その中で地域の実情なども話せる場にしており、様々な視点で話が出来る会議作りをしている	行政職員や地域包括支援センター職員、民生委員、自治会役員などが参加し、事業所の現状やヒヤリハット事例の報告をしている。今後は、会議に家族も出席してもらえるよう働きかけていくことも検討するなど、より良いサービスの実現に向けて取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、現在の状況やケア内容の報告などにより様々な意見交換を行ない改善できるように努めケアの向上に努めている。今後は校区内の他事業所等とも意見交換できるように取り組んでいく	地域包括支援センター主催の地域ケア会議に参加し、認知症の方の行方不明事例などについて話し合うなど、近隣の関係者や関連施設と協力体制を築けるよう努めている。行政担当者に顔を覚えてもらえるように書類は直接手渡しし、その際に相談や意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、定期的に勉強会や会議などで全職員共通理解し、その意味や意識を常に持つよう考えられるように理解を深めている。また、身体拘束委員会を設置し身体拘束に値しないか協議を毎月委員会に行っている	身体拘束に関する委員会を設置し、各自が利用者との接し方について振り返るアンケート調査を行っている。その結果について職員会議で話し合い、身体拘束をしないケアを実践できるよう事業所全体で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束について、定期的に勉強会や会議などを開き、どのような事が虐待となるのかなどシチュエーションを想定した形で全職員の声掛け、姿勢などの接遇に注意し行っている。また、外部研修などにも参加できるように行っていく		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に勉強会などを開き、制度の内容や意図、意味を専門の社会福祉士による講義で理解を深めている。また資料などを回覧できるように事業所内に置いている	入職時の研修や定期的開催している事業所内の勉強会などで、それぞれの制度について学ぶ機会を作っている。活用を希望する利用者や家族の相談にすぐに対応できる体制を作るように職員の知識向上を目的に外部研修への参加も検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書並びに契約書の全文を読み上げ、その際に説明並びに同意を得ている。不明な点や疑問などはいつでも答えられるように心がけている。また改定時などの際は、家族会を開き説明や同意を得れるように行っていく		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望や意見または苦情等は代表者、管理者、副管理者、職員間で話し合い、出来る限り運営に反映できるよう努めている	利用者からは散歩や買い物へ行きたいといった外出に関する要望が多く、職員の勤務体制も考慮しながら可能な範囲で実現できるよう支援している。開所して間もないため、家族からの意見や要望は今のところないが、訪問時には積極的に声をかけ意見や要望を言いやすい関係づくりに努めている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見の反映の場として毎月職員会議やフロア会議へ代表者や管理者も参加し、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。1年に1度、管理者による職員の個人面談も実施していく予定。意見交換ができやすい環境作りに努めている	代表者も参加する職員会議を定期的開催し、職員の意見や提案を直接聞く機会を設けている。今後は管理者による職員の個人面談を年1回実施予定であり、直接利用者と接する職員の意見や提案をできる範囲で反映できるよう体制づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	働きやすい職場を考え1年に1度、代表者による自己評価を行い、職員の不安や業務に対する思いなどを把握するよう努めていき、向上心を持って働けるような環境作りをしていく		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用に当たっては、採用面接に現場で働く職員も参加し採用の意見に取り入れている。採用に至っては、経験、性別や年齢等で判断せず、本人のやる気や働く思いを大切にすることを基本としている	職員の年齢層は幅広く、経験の有無や性別にこだわらず、本人のやる気を重視している。本人の適正を考慮し、働く意欲や能力をより発揮できるよう部署異動も可能な体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定例の勉強会などを開き、職員に対する人権教育や啓発活動に取り組んでいる。また、外部の研修があれば積極的に参加するように取り組んでいく	定期的に入権に関する勉強会を開催し、現在は特に利用者への声かけや接遇面に力を入れている。何気ない声かけの中にも言葉による拘束や利用者の人権を損ねていると認識されかけないものが含まれていることを全ての職員が理解している。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修の機会を設け、新人職員には入職後1週間内に研修を実施している。また年一度の職員による自己評価を実施予定とし、力量把握に努めていく		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区内にある他介護事業所と交流を図っており、研修等や情報共有に努めている。また職員は部会等にも積極的に参加することで、他事業所との交流を図り、サービスの向上に努めている		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前にアセスメントさせて頂き、コミュニケーションを図りつつ、身体的・精神的状況の確認を必ず行うよう努めている。また入居前カンファも必ず実施し、安心した環境づくりに配慮している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前にご家族へ面会し、悩みや不安、入居に対する思いを聞き、サービス開始に繋げている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族との話し合いを通じてニーズの把握に努めるとともに、情報提供書などで得た情報を基に適切なサービス提供に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているという意識において相互関係の下、日々楽しみ・喜びを共感できるよう努めている。また、食事等も入居者・職員同じものを一緒に食べ、生活空間の共有を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	クリスマス会等、ご家族参加型の行事等を企画するなどし、関係が絶たれないよう支援している。また毎月、ご家族宛に手紙で様子などをお伝えするようにしており、共に支えていく関係作りに配慮している		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望があれば、車でドライブへ行ったり、誕生日等で個別的な対応を行うことで、本人の生活の連続性を維持していくことに配慮している。また入居者の友人や親族の訪問を歓迎し交流が途切れないように努めている	利用者の希望で高良山へドライブに行ったり生活の連続性を維持できるよう配慮している。家に帰りたいと希望する利用者が週末自宅に帰って過ごしたり、正月は家族と温泉に行くことを家族の協力で継続している。馴染みの床屋での散髪や、友人や家族の訪問を歓迎し交流が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の趣味・好きなことの理解に努め、レクなどそれが出来る環境作りを行うと共に毎日の体操等で入居者同士の関りを大切にし、職員・他入居者が一緒に行うことで孤立した状況を作らないよう支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだ実績はないが、必要に応じて相談を受けたり、仮に入居者が亡くなられた場合等については、初盆等に出向いたり、連絡する機会を設けるよう努めていく		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や御家族の意向を聞き取り、出来るだけその意向に沿ったケアプランを作成、個別支援を行っている。意思の伝達が困難な利用者については、御家族の協力を得つつ普段の状況を注意深く観察し、出来るだけ思いを汲み取れるよう気がけている	入居前にアセスメントを取り、利用者の残されている能力や生活環境などを把握し、利用者が何を求め、今後どのようなサービスが必要なのかを整理している。利用者の思いを最大限尊重できるように小さな気づきも記録に残し、ケアに活かすよう心がけている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族、自宅や関係者等より情報収集を行い、生活歴や環境を把握し、今までの生活リズムをできる限り崩さないように努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過去の習慣や現在の習慣、及び日頃の心身状況に配慮し、職員間の申し送りや記録への記載にて、状況の把握を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行うとともに、ケアプランに基づきSOAPで記録を行っている。また、本人、家族、関係者による聞き取りや毎月個々のケアプランに対してモニタリングを行い、本人がより良く暮らせるようなケアプラン作成に努めている	家族の希望や利用者への支援方針、求めるサービス内容などをケアプランに反映している。利用者の状態や生活状況の変化に応じてケアプランを見直し、関係者が各々の立場から意見を述べ、利用者の情報を共有、共通理解を図れるよう努めている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録ではケアプランに沿って、SOAPで記録し、入居者の言葉や思いを、いち早く把握しモニタリングしやすいように明確かつ細かな記録を行うようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人がその日に必要なものなどあれば、できる限り後回しにしないよう時間を見つけ職員と共に買い物支援等行っている。また本人家族の希望があれば、医師・歯科医師等の受診、往診を職員が代わりに行えるよう体制を整え、柔軟な対応・支援に努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の際、民生員や地域理事、地域包括支援センターや市役所、また御家族へ参加の呼びかけを行ったり、地区の地域密着型事業所の意見交換会に参加したりし、協働して支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報提供を行い入居者及び家族に説明や意向等を聞き、本人にあった診療を受けられるように支援している。家族の希望があれば、職員による病院付き添いを行っており、病院・事業所と密に連携を取りながら適切な医療を受けられる支援を行っている	利用者や家族の意向を尊重し、かかりつけ医の訪問診療を受け入れ、専門科を受診する際には同行支援も行っている。訪問看護師による健康管理も定期的であり、医療機関と事業所、家族が連携し適切な医療が受けられるよう体制を整えている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か変化があればすぐに管理者・副管理者へ報告したり、医療連携先の訪問看護師に報告するよう徹底している。必要があれば主治医へ報告し、訪問看護を利用したりし、適切なケアを受ける事ができるよう支援している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族や病院関係者と情報の共有を行うとともに、家族同意の下、お見舞いに行き本人の状態把握に努めている。情報交換を密に行い、家族や病院関係者と相談の上、退院へ向けた計画を立て、早期に退院できるように行っている。また入院している、していないに関わらず、直接管理者やケアマネが病院へ行き、SW等に顔見せする機会を設けており、関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ実績はないが、終末期を迎えられる際には医師と家族、スタッフで話し合い、ケアプランを立てなおした上で担当者会議を行い、ケアの統一に努めている。重度化や終末期においては、必ず同意書を頂くよう徹底している	入居前に終末期の意向を聞き、利用者の状態変化時に主治医と相談の上、再度意向を確認、説明する方針である。今後、訪問看護師による勉強会の開催を検討しており、協力医や訪問看護師との連携を図るとともに職員の知識向上に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	災害対策委員会や事故対策委員会を中心に急変や事故発生時の対応・対策の勉強会を定期的に行っている。連携している看護師にも依頼し、応急救護や急変時の対応についての講習を開催し、職員のスキルアップ向上を図っている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。また地域での防災訓練にも職員が参加し、地域での避難方法等を確認し、全職員への情報共有を行い災害時に備えている	今年、1月に自主訓練として避難訓練を実施した。備蓄は長期保存できる食品や飲水ペットボトルの準備もしている。全職員で避難方法等の情報を共有しているが、まだ地域との協力体制は築けていない。	開所したばかりのため、地域と深く交流は持っていない状況である。今後、地域のイベントや日々の交流の中で災害対策に関する協力が得られるように、関係者に働きかけ、利用者が安全に安心して避難できる体制づくりに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が入居者一人ひとりの人格・誇り等を損なわない声掛けや接遇ができるよう勉強会など開催し、入居者一人ひとりに合った接遇を心がけている	接遇研修でプライバシー確保などについて学び、利用者のトイレ使用時や居室への入室時にはさりげなく戸を閉め、利用者のプライバシーに配慮している。声かけも声の大きさやトーンに気を配り、聞き取りやすいよう心がけている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望や要望を表出できるような職員との関係作りに努め、入居者1人ひとりの希望に沿って自己実現できるように職員間でケアカンファを行い、ケアプランや日課作成をし、実現に繋げている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り入居者のペースを尊重し、コミュニケーションを取りながら、入居者主体で毎日生活出来るよう支援するよう努めている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が望む理髪店があれば、家族や職員と共に同行し支援を行っている。毎朝、整容、洗面介助や衣服に関しても本人に好みの物を選ぶような支援に努めている。また希望があれば、化粧品等の購入・支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みや嗜好を把握し、食事の提供できるよう支援している。調理や片付け等は、本人の無理のない範囲ではあるが、役割を持てるように、またできることを奪わない支援を心がけている。また2週に1回は、職員・入居者が考えた食事メニューを提供し、季節感ある食材・食事の提供をし、楽しみのある食事の提供を行っている	利用者の状態や意欲に合わせて、テーブル拭きや盛り付けなどを職員と一緒にしている。食事中は会話の邪魔にならないように音楽を流し、季節を感じる食材や行事にちなんだメニューを取り入れるなど、より楽しみながら食事ができるよう工夫している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材発注業者の管理の下ではあるが、医師や家族の意向にも配慮しつつ、また本人の嗜好も考慮した上での食事提供を行っている。食事は、毎食記録し、水分量については、入居者に応じて、一日の水分量を計測し、水分があまり確保出来ない入居者には、ゼリー等による提供をし、水分量の確保に努めている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、うがい、義歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。月1回、訪問歯科による口腔内洗浄をして頂き、また歯科の指導の下、本人に合った口腔ケアを実施している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄チェック表を使用し、確認することで本人に合った排泄パターンの把握に努め、自立した排泄が出来るよう支援している。ケアカンファを行い日中においては、布パンツを使用している	排泄チェックシートを活用し、利用者の排泄パターンを把握することで、タイミングを見ながら声かけができ、おむつ使用量が減ってきている。おむつ使用を夜間のみとするなど、利用者の状態に合わせて自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適時・適宜のこまめな水分補給を心がけたり、個別に乳製品を提供し、便秘の軽減を図る。また医師や看護師の指導の下、便秘の原因を探り、個別での運動や腹部マッサージを取り入れ便秘予防に努めている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入居者に入浴希望の確認をし、本人の状態に合わせた入浴を行っている。体調不良等で入浴できない場合であっても清拭を行い、清潔保持に努めている。また入浴が楽しめるよう入浴剤の使用やゆず風呂等にて気持ち的にも楽しんで頂けるような支援を行っている	利用者の希望に合わせて柔軟に対応しており、実際に毎日入浴している利用者もいる。入浴を拒否される場合も無理強いせず、家族に協力をお願いしたり、声かけ方法を工夫したりして、清潔な状態が保てるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活歴の情報を把握し、今までの生活に合わせた休息を取って頂くよう心がけている。また日中の状態に応じて休息を取って頂くよう配慮している		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書をファイル化し、職員はいつでも見られるようにしている。入居者一人ひとりの服薬について理解・把握のため、職員により文書化し、薬が与える影響についての理解に努めている。服薬方法についても入居者一人ひとりのケアカンファを行い、誤薬やリスク軽減を図っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月行事を行い、室内レクリエーションだけでなく外出行事も行っている。また誕生日会や季節ごとのイベントも実施している。また、利用者から希望があれば医師や御家族と相談の上、飲酒等も出来る様にしている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日午前午後散歩の時間を設け、公園まで行き地域の方との交流ができる環境作りにも配慮している。その日の希望にも職員は時間を作り、外出支援を心がけている普段行けない場所においても行けない、出来ないではなく本人の希望を把握し、企画・計画し行けるよう支援している	天候の良い日には毎朝夕に近くの公園に散歩にでかけ、地域の方と挨拶を交わすなどして気分転換を図っている。気軽に出かけることができない遠方への外出希望には、職員や家族が協力しながら計画を立て、実際に他県への遠出を支援したこともある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入居者に対しては、お金を自らにて所持して頂いている。管理や支払いができない入居者に対しては、職員同行の下、買い物支援をしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族や大切な人と制限なく電話のやりとりをしている。定期的に遠方の家族から電話を掛けて下さることもあり、取次ぎお話をされている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の南側窓は大きく、日光が入りやすく明るい雰囲気でも過ごしやすい建物作りとなっている。照明もコントロール出来、その日その時にあった照明で過ごせるよう配慮している。ツリーや鏡餅、貼り絵など季節を感じられるものを飾るようにしている。またテレビとラジオは音の混濁ともなるので一方しかながさないようにしている	近くにマンションやビルがあり、日が直接当たりにくい場所もあるため、天井を高くして開放的な空間とするとともに、明かり取り用の窓から日光を取り入れるなど、居心地よく過ごせる空間となるように細かい部分まで配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自好きな場所(椅子やソファ)で過ごして頂いており、利用者同士で話をされたり、テレビや音楽を聞いて過ごされている。利用者同士争い事が起きる時は、席替え等で対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特に制限は設けず、入居時に本人の使い慣れた物を持って来て頂くようお願いをしている。テレビや冷蔵庫、仏壇など入居者が以前と変わらない生活を送れるよう配慮している	使い慣れた家具や思い入れのある物を好きなように持ち込み、利用者が落ち着いて過ごせるよう居室内の色味にも気を配っている。居室の中には畳敷きの部屋もあり、自宅の和室のように過ごせている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のできること役割を最大限活用できるように歩いたり、車椅子自操に不自由ないよう段差はなく、手すりを設置してあり、かつ広々とした空間作りを提供している。居室やトイレが分かるよう掲示し、入居者が混乱や不安がないよう心がけている		